

【訪問概要】

(1) 日程: 令和7年8月16日から19日(帰国は20日)

(2) メンバー:

舞鶴市長 鴨田 秋津

産業振興部長 小島 宏

引揚記念館主幹(学芸員) 松本 達也

(3) 主な行程:

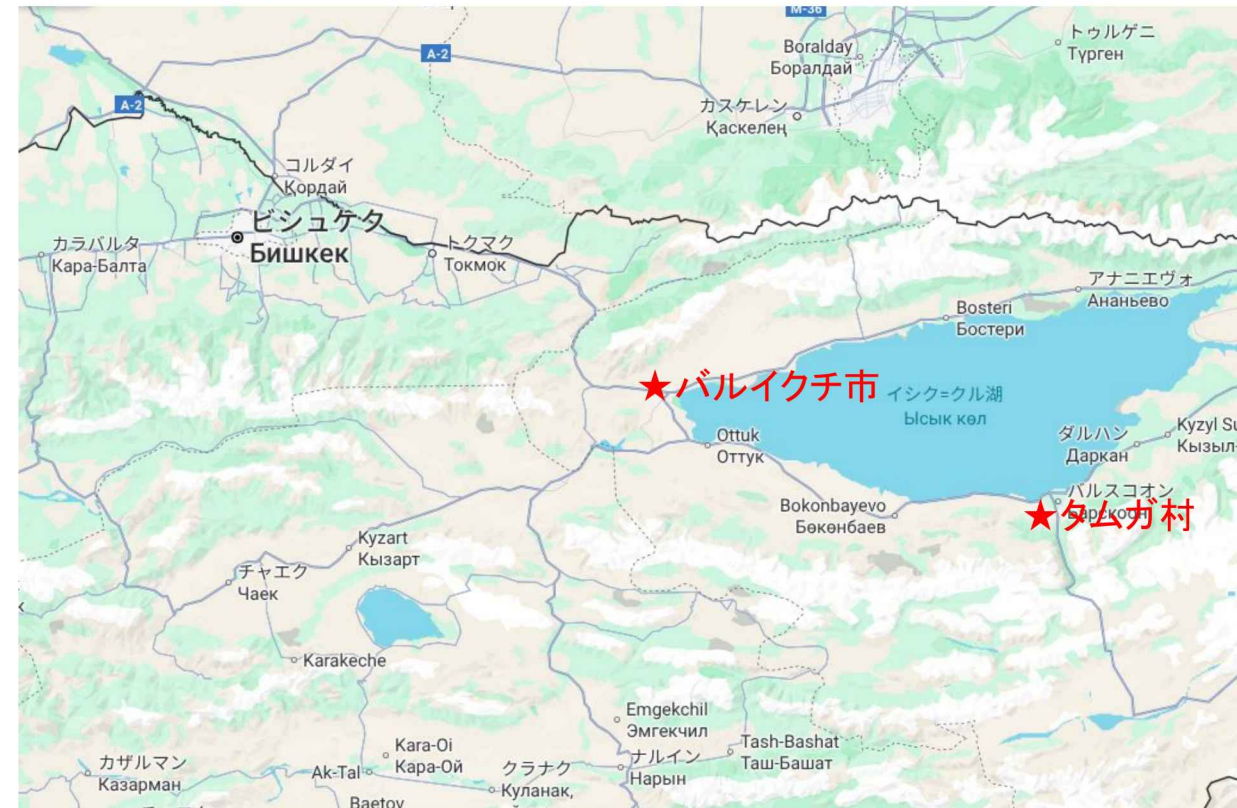
8月16日(土) 関西空港→ビシュケク

8月17日(日) バルイクチ市長との会談
タムガ村サナトリウムの視察

8月18日(月) 文化・情報・青年政策省訪問
青年・体育・スポーツ庁訪問

8月19日(火) レスリングアカデミー視察
在キルギス共和国日本大使館訪問
抑留ドキュメンタリー映画の鑑賞

8月20日(水) ビシュケク→関西空港



1. バルイクチ市長との会見

(1) 日時: 令和7年8月17日(日) 8時30分～9時30分

(2) 場所: イシク・クル州バルイクチ市庁舎

(3) 先方: ジャンタエフ・バティルベク市長ほか

(4) 覚書の交換

「日本国舞鶴市とキルギス共和国バルイクチ市との交流・協力に関する覚書」

(内容)

- ・歴史文化遺産の保存活用に関する交流・協力
- ・スポーツ及び観光分野における交流・協力
- ・人的資源分野における交流・協力



2. 日本人抑留地：タムガ村のサナトリウム(保養所)

訪問日：令和7年8月17日(日)



1946年(昭和21年)から1948年(昭和23年)にかけ、日本人抑留者125名が建設した旧ソ連軍のためのサナトリウム(保養所)。建設当初から殆ど変わらず、現在も当時から続く“泥治療”が行われている。



日本人抑留者が建設したサナトリウム(保養所)からイシク・クル湖方面へ向かう石段。抑留者の人数と同じく 125段ある。

3. 日本人抑留地：タムガ村キルギス平和センター（サナトリウム内）

訪問日：令和7年8月17日(日)



旧ソ連軍中尉現場監督ザビーロフ氏の長男（左から2番目）、民俗学研究者ムラツ氏（左）から、日本人抑留者の様子を聞き取り。



ジェティ・オグズ地方行政長官バハワディノフ氏との懇談

4. 文化・情報・青年政策大臣との会見

(1) 日時: 令和7年8月18日(月) 午前11時～正午

(2) 場所: 文化・情報・青年政策省

(3) 先方: マムベタリエフ・ミルベク大臣ほか

(4) 懇談内容:

●マムベタリエフ大臣から、キルギス文化省として日本人抑留は歴史的に重要な史実として捉えており、今後、専門家等を通じて詳しく調査していく旨言及。

●鴨田市長から、抑留者調査に謝意を表するとともに、前日のタムガ村訪問の報告、ジェティ・オグス地方行政が計画する日本人抑留者展示施設の拡張について期待する旨言及。



5. スポーツ庁長官との会見

(1) 日時: 令和7年8月18日(月) 午後2時～午後3時

(2) 場所: 青年・体育・スポーツ庁

(3) 先方: アブディモノフ・アイベク長官ほか

(4) 覚書の交換

「日本国舞鶴市とキルギス共和国青年・体育・スポーツ庁との青少年のスポーツ交流に関する覚書」

(内容)

- ・青少年の柔道競技の普及、発展、競技力向上
- ・青少年のレスリング競技の普及、発展、競技力向上
- ・青少年のスポーツ交流の発展と国際理解の促進



6. 日本人抑留ドキュメンタリー映画の鑑賞

(1) 日時: 令和7年8月19日(火) 午後3時30分～午後5時

(2) 場所: キルギス日本人材開発センター

(3) 参加者:

映画プロデューサー サルガルタエフ・アルスタンベク氏

映画監督 クバトワ・アイグル 氏

元駐日キルギス共和国大使 モルドガジエフ・リスベク氏

在キルギス共和国日本大使 合田 秀樹 氏

キルギス日本人材開発センター所長 アジモフ・アルマズベク氏
ほか

(4) 内容:

●上記プロデューサーと監督が制作した、日本人抑留をテーマとしたドキュメンタリー映画を視聴。タムガ村サナトリウム建設と、それに関わった日本人抑留者である新潟県新発田市の宮野泰氏(故人)などからのインタビュー映像を収録。

●同映画の舞鶴市内での上映については今後検討。



7. まとめ

(1) タムガ村での日本人抑留

- 日本人抑留者が建てたサナトリウムは、キルギス共和国に残る日本人抑留の重要な史実と認識。
- ジェティ・オグス地方行政庁が計画中的「抑留者記念館」について、市として早期建設を期待するとともに、舞鶴引揚記念館が監修・協力する用意がある旨を表明。
- タムガ村では、過酷な抑留生活ながらも、現地の人々は日本人抑留者に温かく接し、“石を投げるのではなくパンを投げ入れた”史実は、今後の抑留や引揚を語り継ぐ中での重要な逸話として収穫。
- 文化所管省からは、日本人抑留について専門家を交えた調査の意向を示され、今後の継続的な交流を通じて、キルギスでの抑留・引揚史実を積み上げていく。

(2) 今後のキルギス共和国との交流

- スポーツ庁との関係構築により、キルギスでも盛んな柔道・レスリング競技をはじめとするスポーツ交流のパイプを構築。
- バルイクチ市との間では、今後、双方の文化、スポーツ、観光、人材資源について都市間での友好交流の継続を確認。

問い合わせ先

事業名	担当課	担当者	電話番号	FAX番号	メールアドレス
舞鶴市代表団のキルギス共和国訪問	舞鶴引揚記念館	嵯峨根 松本	0773- 68-0836	0773- 68-0370	hikiage@ city.maizuru.lg.jp